

〈エアボーン23〉 米空軍、陸自降下訓練に協力 Airborne 23: where US airlift meets Japan tactical insertion

February 7, 2023

By Senior Airman Hannah Bean
374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地第374空輸航空団は、1月23日から2月2日の間、陸上自衛隊第1空挺団と嘉手納基地米陸軍第1特殊部隊群の空挺隊員による、人員降下訓練「エアボーン23」を支援した。

空挺降下訓練「エアボーン23」は、米陸・空軍、陸上自衛隊が協力し、大規模のスタティックライン人員降下及び物資投下訓練を行う作戦で、パートナー部隊間の連携と作戦の実効性を強化する目的で行われる。

第374空輸航空団司令官アンドリュー・ラダン大佐は、「インド太平洋の平和と安定の維持に、横田の空兵、米陸軍、陸上自衛隊との間のパートナーシップとチームワークは欠かせない」と述べ、「両国はその平和と安定のために取り組み、普段からこうした偉業を達成している。両国の友好関係がもたらす未来に、期待が高まる」と言及した。

同訓練では、第36空輸中隊所属の7機とアーカンソー州リトルロック空軍基地第19空輸航空団所属の2機の計9機のC-130Jスーパーハーキュリーズが、約300人の陸上自衛隊と米軍の空挺隊員を陸上自衛隊東富士演習場へと輸送し、空挺隊員が降下地点へのタティックラインジャンプ訓練を行った。

陸上自衛隊第1空挺団司令若松純也陸将補は、「降下訓練始めに続き、エアボーン23において第374空輸航空団と深く連携できることを大変嬉しく思う。空挺団は、これまで第374空輸航空団と多くの関わり合いの機会を通じ、その都度、絆で結ばれていくことを実感しており、この関わり合いは、アメリカと日本の友好関係の強化ひいてはインド太平洋地域の平和と安定にも繋がっていると考えている」と述べ、また、「第374空輸航空団と第1空挺団の更なる“鋼”のような信頼関係の構築と高い実力の維持、そして友人の益々のご発展を祈念している」とコメントを述べた。

日米の部隊は、人員降下に加え、米空軍のC-130Jから100個のコンテナ輸送システムの物資を東富士演習場の6カ所の地点に投下した。

陸上自衛隊の貨物担当官は、100個の物資梱包作業を初めて横田基地で行い、日米両部隊の専門官がその精度を確認した。コンテナには、陸上自衛隊の作戦を支援する燃料、水、食料、さまざまな弾薬等の模擬物資が積められた。

第374空輸航空団は、インド太平洋地域における同盟関係及びパートナーシップの強化に取り組んでいる。インド太平洋地域における米国の安全保障戦略は、米国と友好国及び同盟国の部隊間との訓練の重要性を強調している。

